

(1) 小学部

ア 学部教育目標

児童の安心・安全な環境を作り、日常生活に必要な力を身に付けるとともに、自分のよさや可能性を知り、身の回りのことに自ら意欲的に取り組もうとする児童を育成する。

イ 小学部の教育

〈わたしたちの願い及び教育課程編成の基本的な考え方〉

小学部はこれからの学校教育の基盤を培い、主体的な生活態度や創造的な思考などの基礎を育成する場である。これまでに築かれてきた保護者や療育者との安心できる関係から発展し、学校における教師や友達と一緒に活動する関係へと広げ、それらを基に様々なことに興味・関心を広げ、人やものと主体的に関わり自ら意欲的に取り組もうとする態度の基礎を築くことが大切である。また、自分の良さや可能性に気付き、自己肯定感を高め、自己選択する力や役割を果たしていく力を育成していくことも大切である。

児童は、学校生活が始まったばかりの下学年の段階から、学校生活に慣れ生活全般が安定した上学年の段階までと、生活年齢や生活経験の幅が広い。従って、長期的な発達を見据えてその段階に応じた活動の場を十分設定し、持続可能な社会の実現のために日常生活につながる具体的な体験を通して学校生活が充実するようにすることが重要である。また、必要に応じてゲストティチャーを活用し、地域との連携を図るようにする。

そこで、小学部では児童の生活年齢と生活経験を考慮し、下学年から上学年へと段階的に指導を進めることができるように、次の視点を柱として教育課程を編成することとした。

(7) 日常生活に必要な力を身に付ける児童を育成するために

将来の自立と社会参加を豊かなものにしていくためには、身近の自立的な生活が基盤となる。また、周囲の人と豊かな関係を築くためには、コミュニケーション能力の基礎を身に付けることが重要である。

そこで、小学部では日常生活の指導や生活単元学習、遊びの指導などを通して、基本的な生活習慣を身に付けるとともに、人やものと豊かに関わり生活経験を広げていくこと、仲間を意識し集団へ適応する力を身に付けること、周りの人から必要とされているという実感が得られるような経験をすることに重点を置く。また、教科別の指導においては、児童の生活に密着した体験的な学習を十分取り入れ、実際の生活に生かすことができるようにしていく。下学年では、ゆとりある学校生活の流れを作るとともに、その流れに沿った具体的場面を通して基本的な生活習慣を身に付け、自分のことは自分ですという意識をもつことや、必要に応じて自ら支援を求められることができるようにすることを大事にしなが、指導を進めていく。また、教師と一緒に遊んだり好きな活動をしたりすることで、大人との信頼関係を築くとともに、自分の気持ちや要求を伝える経験を積み重ねることを大切にする。

上学年では、基本的な生活習慣を確立し、身に付けた力を生活に生かせるようにすることを大切にする。更に、集団生活に必要なルールや役割の理解、一日の生活や学校行事に見通しをもち、友達や教師と一緒に学校生活を楽しむことができるようにする。そこで、行事や集会活動などにおいて自分の役割を果たす機会を設定し、児童が上学年としての自覚をもち、自分の気持ちや考えを伝え、意欲的・主体的に活動するような場や状況作りを工夫する。

(イ) 身の回りのことに自ら意欲的に取り組もうとする児童を育成するために

興味・関心に基づいた生活体験の広がりや、次の活動に対する動機付けになり、児童自ら意欲的に活動して達成感や成就感を味わい、新たな興味や関心へとつながっていくと考える。

さらには、できたことや頑張っていることを認められる体験の中で、自分ができることに主体的に取り組む、役割を果たそうとすることができるようになるかと考える。

下学年においては、児童の体験を教師が十分に共有、共感して、自分の良さや身に付いた力を意識し、新たな意欲を引き出すような状況作りに努める。また、教師や友達とともに新しい体験を積むことができるような場も設定し、選択の幅が広がっていくようにする。

上学年では、教師との共感関係や下学年での経験を基に、児童自らが選択し決定できるような学習課題を工夫したり、児童同士が関わり、主体的に課題解決に取り組んだりすることができるようにする。また、中学部への移行も念頭に置いた作業的な活動も取り入れる中で、友達の存在を認めて協力しながら自分の役割を果たすなど経験を広げ、十分な達成感を得られるようにすることで、自ら意欲的に取り組むことができるようにする。